

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
【目指す学校像】 ○あいさつに溢れ、明るく生徒が登校する学校 ○環境美化を推進し、安全で学習に専念できる学校 ○いじめや不登校がなく、正しいことが認められる学校 ○保護者や地域社会から信頼され、開かれた学校 【目指す生徒像】 ○学校を愛し、誇りを持ち、社会に貢献できる生徒 ○将来を見据え自らを律し、正しく行動する生徒 ○逞しい心身を持ち、粘り強く、自ら課題に立ち向かう生徒 ○自他の人格を尊重し、互いに認め合い高め合う生徒 ○自らの考えを発表し、行動できる生徒 【目指す教師像】 ○一人一人の生徒に、真の愛情を注ぐことができる教師 ○学校教育目標を理解し、具現化のため努力する教師 ○研修に努め、専門的知識と生徒指導力を備えた教師 ○保護者や地域社会との連携を密にし、教育の充実に努める教師		確かな学力の定着 不登校生徒の減少への取り組み 道徳教育の充実	・家庭学習の充実を図るために、家庭との連携が重要であり、課題の内容及び提出方法等を検討する。 ・基礎基本の定着を目指し、学習コンクール等を継続して行う。 ・生徒指導委員会や特別支援委員会の活動のさらなる充実化を図るとともに、生徒の情報を共有し、早めの対応を行う。 ・家庭訪問や保護者連絡等の迅速な対応を行う。 ・不登校対応教員、SC、担任との連携をより密にし、組織的な対応をする。 ・アンケート調査を踏まえ、各学年に重点内容項目を設定し、組織的に取り組み、道徳実践力の向上につなげる。 ・校内研修を通して、教師の力量の向上に努める。 ・日常生活の中の様々な場面をとらえ、生徒に考えさせることに努める。
重点目標	指標 (取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
基礎学力の定着及び、指導方法の工夫改善を通じた学習指導の充実	基礎・基本の定着と言語活動の充実を目指し、小集団を活用した授業改善の取組を進める。(取組指標)	○TT授業により、指導が行き届くよう工夫改善を行った。また、基礎基本の定着を目指し、学習コンクールを取り組んだ。 ○定期考査前の補充学習は計画的に取り組むことができた。 ○家庭学習の内容に個人差があるが、毎日の家庭学習(塾や習い事以外)を1時間以上行っている生徒は、第1・2学年は約60%程度で、第3学年は約80%程度にいたっている。 ○生活ノート活用状況は約90%程度定着している。担任と生徒間のコミュニケーションツールとなっているので、生徒の様子などの理解に役に立っている。また、家庭学習の習慣にも役立っている。	
	定期考査前の補充学習の改善と充実に努める。(取組指標)		
	毎日の生活ノートを活用し、90%以上の生徒が家庭学習について定着させるようになる。(成果指標)		
	アンケート調査において、家庭学習毎日1時間以上を80%(成果指標)		
自己指導力の育成と不登校を生まない生徒指導の推進	問題行動やいじめを未然に防ぐ指導体制の確立と職員間の情報の共有化を図り、個に応じた指導を徹底する。(取組指標)	○週一回開催する生徒指導委員会で、情報共有をしながら、問題行動やいじめを未然に防止する対応を取ることができた。また、毎週、委員会での内容等を全職員に報告することにより、共有することができた。 ○不登校生徒への対応に関して、担任及び不登校対応教員と連携して、家庭訪問や保護者連絡を積極的に行った。また、サポートルームを活用し、不登校傾向生徒が登校できるようになった生徒が増えて成果があった。	
	優しさや厳しさ、受容と共感の精神に即し、教師と生徒の望ましい人間関係を育成する。(取組指標)		
	生徒指導委員会を充実させ、事案や関係生徒の背景をしっかりと見据えた指導をすることにより問題行動の円満な解決が増える。(成果指標)		
	「すこやか」や「個別の指導計画」を活用し、サポートルームの活動など個に応じた支援を工夫し、不登校生徒の2割減少を目指す。(成果指標)		
「當仁不讓於師」の精神と実践力をはぐくみ規則を遵守する道徳教育の充実	道徳の授業を中心に、教育活動全体を通して、道徳的判断力、実践力の育成を図る。(取組指標)	○校内研修の柱を道徳教育とし、「自他を大切に育てる生徒を育てる道徳教育の推進」を主題としている。 ○3人組ローテーションで行う道徳授業も確立し、教員相互の授業参観や授業後の協議を実施し、手直し、修正を加えてよりよい道徳授業の構築に取り組めた。 ○生徒アンケート分析により、全学年とも「向上心・個性の伸長」の内容項目が低い結果となっている。また、「学校のきまりを守って生活している」の項目は、2.3年生とも昨年度より約5%以上向上している。	
	学年全職員でローテーションを組んで道徳授業を行う。相互に授業を参観を行い、実施後検討会を行う。(取組指標)		
	職員全員で道徳に係わることで、生徒とともに考える関係が生まれ、実践的解決能力がついたと感じる生徒が8割を超えるようになる。(成果指標)		
	きまりを守ることの大切さがわかる生徒が増加する。(成果指標)		
学校関係者評価についての説明 (評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○当仁中学校の道徳教育は、子どもたちにとって大切だと思います。「生きる力」に繋がっていく教育を今後も大切にしてほしい。 ○生徒のスキルアップのために、講演会や様々な行事が行われている。 ○研修や新しい指導方法にも意欲的に取り組まれています。 ○学校でのいろいろな体験授業をしっかりとやろうとする姿勢が感じられます。 ○元気な挨拶で登校している様子や授業に真剣に取り組む生徒の姿勢を見て良い状況であると感じる。 ○サポーター会議のあり方は現状でよいと思います。 ○何かあったら時は臨機応変に対応して集まると良いと思います。			